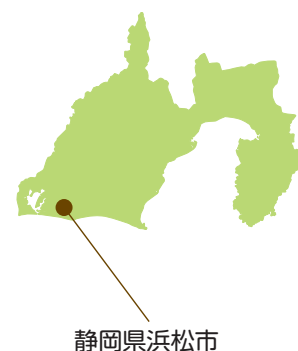


株式会社カクト・ロコ

※2016年3月現在

代表者名	野末 信子	資本金	8百万円
設立年	2004年10月8日	売上高	220百万円(2015年9月期)
事業内容	生産(花き)、消費者直売、加工・製造	経営規模	施設 20,000㎡、加工場 20㎡、直売所 300㎡
従事者数	86人(うち女性73人。女性内訳:役員1人、管理職6人、一般職5人、常勤パート61人)		
女性活躍支援	<p>[女性に配慮して取組んでいる制度]</p> 休暇(産前産後・育児)、短時間勤務制度、育児休業代替要員を確保、育児休業後の継続就業支援 <p>[女性に配慮して取組んだ環境整備]</p> 施設設備関係(休憩室・屋内・野外トイレの設置)、重労働等の業務改善、技術・知識の習得支援		



経営概況

(株)カクト・ロコは静岡県浜松市北区都田町の農村地域にあり、サボテンなどの多肉植物を全国のホームセンターや園芸店に向けて生産・販売している。社名の「カクト・ロコ」とは、スペイン語で“サボテンに夢中”という意味である。

1960年代にミカンの栽培を開始、70年代は肥育牛やナシの生産を行っていたが、80年代に「なぜ農業は、農家が生産した農作物に、値段をつけられないのか?」と当時の農業のあり方に疑問を抱いたのが、多肉植物導入のきっかけである。

その後、農産物の直売に力を入れ始め、1989年にはサボテン栽培に転換。1996年にはサボテンや多肉植物、他農産品の直売店「サボテンランド カクト・ロコ」をオープンした。サボテンや多肉植物の生産に加えて様々な農産品の直売に力を入れるようになり、2004年に法人化した。その際、夫から「これからは女性が活躍できるように」と勧められ、野末信子氏が代表取締役に就任し現在に至る。

多肉植物は細かい作業が多く、センスが求められることから、「女性こそ力が発揮できるのでは」と創業時から多くの女性を雇用している。売上高は、創業時の6,000万円から、2015年9月期には2億2,000万円まで増加し、法人化後の11期全てで黒字となっている。

1. 女性が活躍する多肉植物の生産・販売への舵取り

信子氏以下、会社の4部門(ネット・店舗販売、寄せ植え、生産、出荷)の責任者は全て女性である。80年代後半に農業の先行きが不安視される中、サボテンに出会い、「この見た目に面白い植物



を、もっと世の中に広めたい」と思うようになり、経営転換を行った。夫婦を中心に雇用も行っていたが、2004年に夫婦2人が50歳を過ぎた頃、「いくら夢を語っても夫婦単位では次世代に想いを継ぐことは難しい」と考えるようになり、誰でも経営を継承でき、組織で農業が営めるように法人化することとなった。

初期は、信子氏自らが全国のホームセンターにPRを行い、まだ知名度の低かった多肉植物の栽培方法や楽しみ方を直接伝えに行った。女性社長であるということで、販売店や消費者にも受け入れられやすく、現在は全国のホームセンターの約8割に納品している。

生産においては、若手の女性社員の色・形の感性を活かした商品作りにより、商品力が高まり注文も増加している。多肉植物は定植から出荷まで時間がかかるため、販売管理に基づく生産計画を行うよう、各部門の女性責任者が細やかに連携して業務に従事している。

2. 女性社長への就任

信子氏の代表取締役就任については積極的に学ぶ姿勢が夫にも理解され、評価されたからだという。

約30年前から地域の専業農家の若妻グループで複式農業簿記を学び、パソコンでの記帳を行って経営記帳を任されたり、農林事務所が開催する経営セミナーを受講して経営について学んだり、地域の農業者でアグリフォーラムを立ち上げたことなど、ひとえに信子氏の努力あってこそである。

3. 子育て・出産に係わる制度

子供を持つパート社員の間では、子供が幼稚園や学校に行っている時間帯だけ、たとえば10時から13時まで昼休みもなく働きたいという声もあり、希望するパート社員には、個々の事情で勤務時間を決められるようにした。また、学校行事や子供の発病等の場合にも休暇がとれるよう、雇

用する人員に余裕を持たせている。

産休・育休制度については、パートとして働いていた次期後継者の妻が最初に制度を利用し、他の社員やパートに対しても利用しやすいようPRするなど、女性が出産・育児を経ても働き続けることができるよう考えている。

4. 女性が働きやすい環境の整備

施設設備関係では、圃場ごとに簡易トイレ・休憩室・いつでも飲める飲料水、特に夏場には自家製の梅ジュースを用意し、健康にも留意した働きやすい環境づくりに取り組んでいる。

また、重労働等の業務改善、技術・知識の習得支援にも取り組んでいる。現在、集出荷場及び作業場は傾斜地に建っており、台車を動かす場合などに働く人に負担がかかっている。そのため今後は、業務の拡大に伴って新たな集出荷場等の建設を行い、作業の効率化と働く人に優しい職場づくりを行っていききたいと考えている。

審査委員の声

会社設立当初から女性の自立や活躍を目指してきた。社員には、社長の志に共感した、不屈の精神と自身の魅力を自覚して発信できる“美貌”を兼ね備えた女性たちが集まっている。そんな彼女たちに「自分の足でしっかりと立って生きていけ」とエールを送り続ける野末社長は、まさに女性経営者のロールモデルといえる。経営については会長と社長の立場で議論・検討し、基本方針などを導きだしてきた野末夫妻。夫婦としてではなく経営者としての対等で明確な役割分担が、女性社長の意識を育ててきたに相違ない。個を尊重する一方で、課題は役員会で解決し、各部門の女性責任者同士が密接に連携するなど、協調の精神も根付く魅力的な経営体だ。